

摩湯山古墳 II

—一般府道三林・岡山線歩道設置工事に伴う発掘調査—



(摩湯山古墳航空写真)

1999. 3

大阪府教育委員会

はしがき

昭和31年5月15日に国の史跡に指定された摩湯山古墳は全長約200mをはかる泉南郡最古で、最大規模の前方後円墳であります。前方部は北西の大坂湾に向いており、標高約60mの後円部の墳頂からの眺めは北方に遠く六甲山や淡路島、南には神於山、和泉葛城山を望むことができます。

昭和7年に刊行された「大阪府史蹟名勝天然記念物調査報告」第三輯の梅原末治先生の調査報告や岸和田市史等に於いて、外部構造や、表面採集遺物等が報告されており、その後も古墳の南側に存在する馬子塚古墳からの貴重な遺物の発見に伴って、学術的にも高い評価を得ています。

過去の調査や評価については昨年度の調査報告書の中で簡潔にまとめることができました。本年度も引き続き歩道設置工事が行われることとなり、平成10年9月から延長工事部分の調査を実施しました。

結果は予想した古墳外堤の盛上痕跡は検出されず、地山の北側斜面への下がりが確認されました。恐らく旧耕土層の開墾時に削平されてしまったものと思われます。しかし、現在の道路の下には残存している可能性があります。

今後の周辺の文化財調査等により、その実態が確認されることと思われます。

今回の調査では、地元岸和田市教育委員会の方々や、関係機関の方々の多大なご協力をえることができました。心から感謝するとともに、今後とも文化財の保護活用について御協力頂きますようお願いします。

平成11年3月

大阪府教育委員会

文化財保護課長 鹿野一美

例　　言

1. 本書は、大阪府教育委員会文化財保護課が、大阪府土木部の依頼を受けて平成10年度に実施した岸和田市摩湯町所在、摩湯山古墳の一般府道三林・岡山線歩道設置工事に伴う発掘調査事業の報告書である。
2. 調査は大阪府教育委員会文化財保護課主査芝野圭之助を担当者として実施し平成10年9月に着手し、平成11年3月に終了した。
3. 調査の実施にあたっては、大阪府岸和田上木事務所、岸和田市教育委員会等関係各位から多大な協力をえた。記して感謝の意を表したい。
4. 本書で使用した標高は、全てT.P.（東京湾標準潮位）表示値である。
5. 本書の執筆については芝野圭之助が行った。

目 次

はしがき	
例言	
第1章 調査に至る経過.....	1
第1節 試掘調査の概要.....	1
第2節 歴史的環境.....	2
第3節 既往の調査.....	3
第2章 調査の成果.....	3
第1節 調査経過.....	3
第2節 調査概要.....	4
第3節 層位.....	4
第4節 遺構.....	4
第5節 出土遺物.....	5
第3章 まとめ.....	5

挿 図 目 次

- fig. 1 周辺の遺跡位置図
- fig. 2 摩湯山古墳地区割表示図
- fig. 3 調査区位置図
- fig. 4 調査区平面図・断面図
- fig. 5 調査区周辺地形図

写 真 目 次

- 図版表紙 摩湯山古墳航空写真
- PL. 1 調査区周辺写真
- PL. 1 調査区遺構写真（南東から）及び出土遺物写真

摩湯山古墳 II

—一般府道三林・岡山線歩道設置工事に伴う発掘調査—

芝野主之助

第1章 調査に至る経過

第1節 試堀調査の概要

大阪府土木部道路課、岸和田土木事務所交通安全施設係からの依頼により、平成10年7月17日に調査第1係が、歩道予定場所にトレチを3ヶ所、 7.1m^2 にわたって試堀した。その結果以下の知見が得られたので北半分を調査することとなった。

トレチ第1の立地は現道に北接する畠地。規模は $1.1\text{m} \times 1.6\text{m}$ 、層位は厚さ10cmの旧耕土（灰色砂質土）の下に、厚さ5cmの淡灰色砂質土があり地山（黄褐色砂混じり粘質土）に至る。出土遺物なし。トレチ第2の立地は現道北寄り。規模は1.5mの方形、層位は厚さ35cmのアスファルト及び鉄滓（路床）下の北半分はコンクリート塗壁裏込めの黄褐色粘質土ブロックで、南半部はそれを切るNTT埋設管埋め戻し土。GL=-85cmまで掘削。出土遺物なし。トレチ第3の立地は現歩道内。規模は $1.5\text{m} \times 2.0\text{m}$ 、層位は地表より0.5m～0.7m下までアスファルト・鉄滓（路床）・新しい盛土となる。その下に厚さ0.3～0.45mの暗灰色疊混じり粘質土で、北に下



fig. 1 周辺の遺跡位置図

がる。ビニールを含む。その下は、淡黄灰色粘質土がGL-1.75m以下まで続く。一見地山だが炭粒や灰色シルトを含む盛土と考えられる。出土遺物なし。

第2節 歴史的環境 (fig. 1)

この地域の旧石器縄文時代の遺構・遺物は標高22m前後に存在する軽部池西遺跡から小田遺跡にかけて流れる縄文時代の旧河道、山ノ内遺跡から山直北遺跡の標高27m前後にかけて存在する落とし穴と考えられる土壙群及び三田遺跡の石器群等が知られる。

弥生時代集落遺跡は箕十路遺跡・西大路遺跡等標高20m以下の牛滝川の低位段丘面上に立地する一群があり、今木遺跡・軽部池西遺跡・山ノ内遺跡等、標高20mから27m前後の中位段丘面上の旧河道の縁辺に立地する一群、更に山直北遺跡にみられるような標高30m前後に住居と土壙墓を営む一群が知られる。

古墳時代になるとベット状遺構を伴う住居跡が検出された西大路遺跡が確認される。後期になると洪積段丘中位及び高位面上に山直北遺跡や三田遺跡が知られる。三田遺跡の建物群は奈良時代まで継続する。

平安時代から中世にかけては、段丘上は水田として開発され、今木廃寺等の寺院跡や掘立柱建物跡が確認される。^(註1)

和泉国は延喜式及び、和名抄で、大鳥・和泉・日根の3郡に記載され、摩湯町の所在した泉州郡は和名抄以後に記載されている。古代以前は岸和田・貝塚以北とそれより和歌山側の日根郡とは確実に区別されていた。これは、弥生時代から古墳時代にかけての遺跡のあり方とも通じる。

岸和田市摩湯町は明治5年には泉州郡に属し、明治22年4月の町村制施行（山直上・山直下・八木・南掃守村・北掃守村・沼野村・岸和田町・岸和田濱町・岸和田村・土生郷村・有真香村・東葛城村・西葛城村・島村・木島村・貝塚町・麻生郷村）の際には山直下村に含まれ、三田・摩湯・今木・東大路・田治米・新在家の6ヶ村で構成されていた。これは地形的に標高20mから40mの中位段丘面に展開する集落である。

近世末、明治初年の泉州郡の石高は、36,829石余りであった。そのうち、岸和田藩岡部美濃守領は26,306石余り。淀藩稻葉美濃守領1,780石余り。岸和田藩岡部美濃守領4,258石余り。京都守護職松平肥後守知行地1,117石余り。代官内海多次郎支配地3,366石余りで、その内摩湯村は、安政2年以降代官内海多次郎による幕府領となり、石高399石1斗7合であった。当時のこの地域は領主が度々代わり、収穫高も不安定な状態であったと考えられる。^(註2)

(註1) 岸和田市史編纂委員会「岸和田市史第2巻」平成8年

(註2) 井上正雄「大阪府全志第5巻」大正11年

第3節 既往の調査

山直谷は1985年以降、空港関連事業である府道磯之上山直線の建設に伴う埋蔵文化財発掘調査の進展により数多くの調査データーが蓄積された。

(附)大阪府埋蔵文化財協会昭和61年度府道磯之上山直線の調査によって古墳時代堅穴住居・掘立柱建物・古墳痕跡1基・土壙墓。奈良平安時代掘立柱建物(7棟以上)・井戸、硯・綠釉香炉・土馬の出土が確認された。また、平成6年度から岸和田市教育委員会調査が実施している山直・摩湯地区は場整備事業に伴う発掘調査では、約10haの調査範囲で、遺物包含層、遺構等の確認がなされた。

続く平成7年度から岸和田市教育委員会による山直・摩湯地区は場整備事業に伴う発掘調査では、調査範囲2,000m²において古墳時代の4基の古墳・土壙・溝。5世紀末~6世紀初頭の埴輪・須恵器が検出された。更に奈良平安時代の溝・土壙・綠釉陶器、黒色土器、瓦等が見つかっている。その他5世紀の後半から6世紀の集落として、三田遺跡・上フジ遺跡等が発見されている。^(註1)

古墳時代前期の集落跡にはベット状遺構を伴う住居跡が確認された西大路遺跡、及び軽部池北遺跡等が存在する。

(註1) 岸和田市教育委員会 「山直北遺跡現地説明会資料」平成9年

なお山直北遺跡の古墳群の調査について岸和田市教育委員会山岡氏から御教示を得た。

第2章 調査の成果 (PL1. 2.)

第1節 調査経過

試掘調査の後本格調査は、8月に入って歩道建設の業者が決まり、事前の地元協議等も終了したのち開始した。以下、経過を略述する。

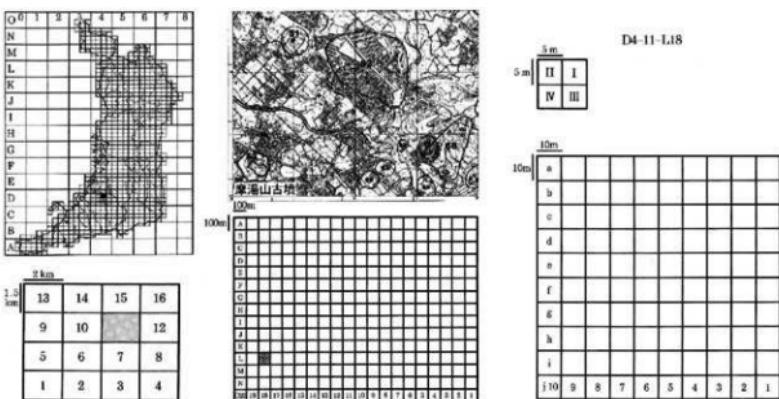


fig. 2 摩湯山古墳地区割表示図

8月31日から9月1日、現地で業者及び大阪府土木部と現地で打合せする。9月2日から機械掘削。9月3日から人力掘削、側溝掘削、9月8日遺構面精査、写真撮影。9月9日南東部黄茶色土人力掘削、遺構面精査。写真撮影・レベル記入調査地区割り表示はfig. 2となる。

第2節 調査概要 (fig. 3)

発掘調査を実施した場所は工場又は倉庫のあった場所で、表土内にも石炭殻のような焼土の塊が含まれていた。調査範囲の面積は幅3m×延長20mの細長いトレンチで、表土及び盛土を機械で掘削したあと、ベルトコンベア及び発動発電機を設置し、人力掘削に移った。

第3節 層位 (fig. 4)

旧耕土を除くと茶褐色土が現れる。茶褐色土を約10cm掘削し、黄褐色土及び、黄褐色砾土の地山を検出した。部分的に、やや暗い黄色土が堆積していたが、遺物がなく、かなり古い時期の小規模な浅い谷の存在が考えられる。

第4節 遺構 (fig. 4)

本調査区の南側に試掘の際に検出された暗黄色土が盛土かどうか、確認する必要があったが、地表面から約1.7m掘削したがなお暗黄色土は幅を狭めながら続いている。明確な

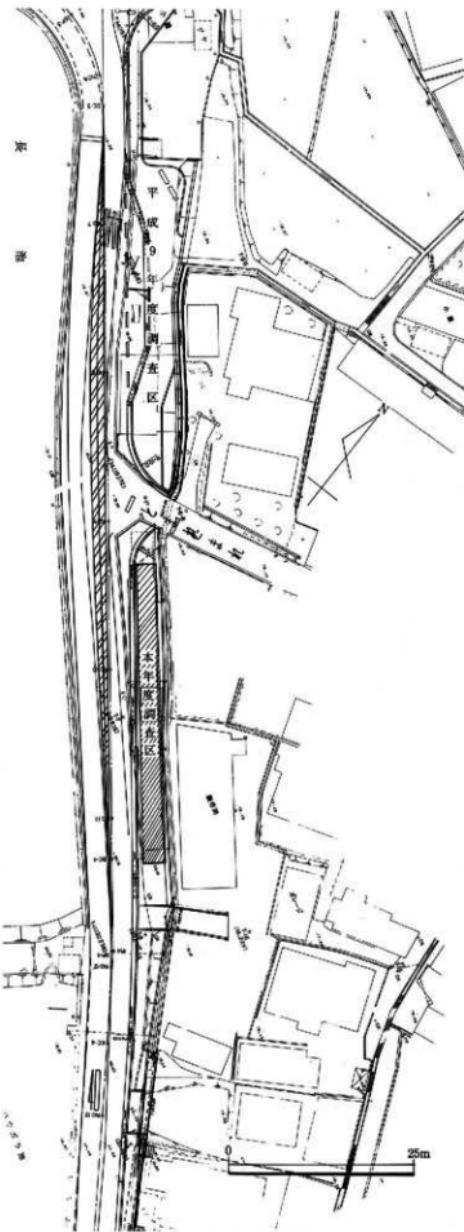


fig. 3 調査区位置図

地山は検出されなかつたが、古い時期の浅い谷が自然に埋没した痕跡であろうと考えられる。

地山ではないが、古墳の盛土でもなく、古墳造成の痕跡でもないであらう。

その他の調査区では黄褐色粘質土が基本的には北東に下降し、地山面と確認された。この地点だけのデーターでは古墳築造時に盛土や、埴輪列が存在しなかつたとしか言えないが、道路建設や工場建設によるその後の地形改变が激しいので外堤の施設が存在したかどうか不明である。

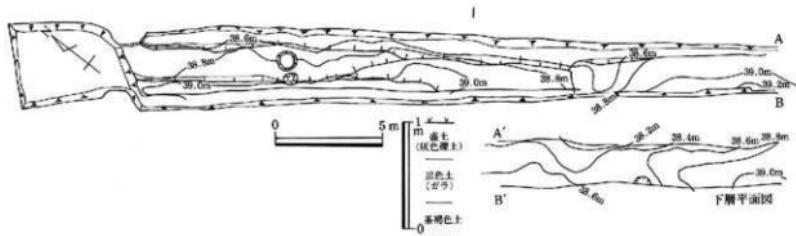


fig. 4 調査区平面図・断面図

第5節 出土遺物

現代の擾乱が殆どで、盛土や擾乱土内からわずかに土錐、近世陶磁器が出土した。(PL. 2)

第3章 まとめ

泉州南域最古で、最大級の規模をほこる前方後円墳、摩湯山古墳は全長約200mをはかり、前方部は北西の大坂湾に向き、後円部墳頂の標高は約59.6mである。調査区の標高は約38mで、その差は21mと大きい。今回の調査では堤の盛土の痕跡は検出できず³、地山が北東側へ下降する斜面の下がりが確認された。恐らく既存建物の盛土の下に検出した、旧耕土層の開墾時にすでに削平されたのであらう。丘陵尾根を切断して構築しているので、外堤は全周していなかつたのではないだろうか。前方部北側の一部について築堤した可能性が考えられるが、地形図によれば、後円部墳端高約47mで前方部墳端高約39mと、約8mのレベル差が見られる。前方部の前に堤を築かなければならなかつたのは近世以降の水田への灌漑用水確保のための施工ではなかつたか。

次に外堀の滲水についてであるが、標高約38mに水を湛えた場合、平成9年調査で検出された近世水路が標高37mであり、箕形・田治米・三田の集落以下に水を配ることが可能となる。弥生時代から古墳時代の周辺の遺跡には、先述したように箕土路遺跡^(註1)・ベット状遺構を伴う住居跡が検出された西大路遺跡等標高20m以下の牛滝川低位段丘面上の遺跡、今木遺跡^(註2)・輕部池西遺跡^(註3)・山ノ内遺跡等、標高20mから27m前後の中位段丘面上の旧河道の縁辺の集落、標高30m前後に住居^(註4)や土壙墓を営む山直北遺跡が知られる。後期になると洪積段丘中位及び高位面上に山直北遺跡^(註5)や三田遺跡^(註6)が知られる。三田遺跡の建物群は奈良時代まで繼續する。

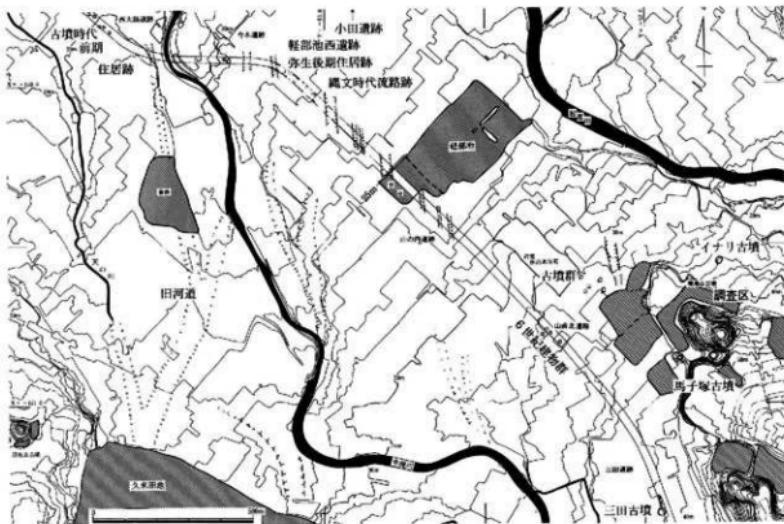


fig. 5 調査区の周辺地形図
(財)大阪府埋蔵文化財協会報告第11「軽部池西遺跡」1987より加筆、転載

このように、耕作可能な土地にも、古墳時代から奈良時代にかけて多数の遺跡群が存在し、とりわけ住居跡や墓域が営まれている。軽部池の築造で、奈良時代の開発が行われ、海岸線に向かって条里地割りの開発が沖積地において実施され、段丘上面や丘陵は開発に至っていないかったと考えられる。

平安時代から中世にかけて、段丘上が水田として開発されるといわれるが、古代末から中世にいたる今木庵寺等の寺院跡や掘立柱建物跡が確認されること、段丘縁辺部が平安・鎌倉時代に地域の寺院を中心に整備されたのではないか。この時期ようやく摩湯山古墳の外堤に隣接する池溝群が確保されたと考えられ、摩湯山古墳の外堤を池として利用した本格的な段丘中上位面の開発は近世に至って着手されたと思われた。

今回は小規模な調査ではあったが、以上のこと考えられた。

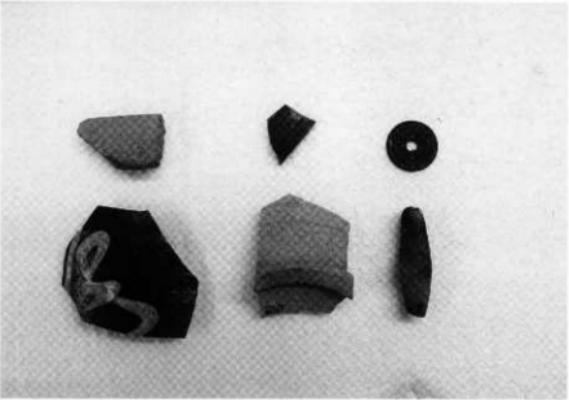
今後、周辺の遺構・遺物を検討してみる必要があろう。

- (註1) 大阪府教育委員会「摩湯山古墳」 1998
- (註2) (財)大阪府埋蔵文化財協会「箕土路遺跡」 1987
- (註3) (財)大阪府埋蔵文化財協会「西大路遺跡」 1988
- (註4) 大阪府教育委員会「今木庵寺跡発掘調査概要」 1985
- (註5) (財)大阪府埋蔵文化財協会「山ノ内遺跡」 1988
- (註6) (財)大阪府埋蔵文化財協会「山北直遺跡・山ノ内遺跡B地区」 1988
- (註7) (財)大阪府埋蔵文化財協会「三田遺跡発掘調査報告書」 1987



摩湯山古墳航空写真





報 告 書 抄 錄

ふりがな	まゆやまこふん						
書名	摩湯山古墳II						
副書名	一般府道三林・岡山線歩道設置工事に伴う発掘調査						
シリーズ名	大阪府埋蔵文化財調査報告1998						
シリーズ番号	II						
編著者名	芝野圭之助						
編集機関	大阪府教育委員会事務局文化財保護課調査第1係						
所在地	大阪府大阪市中央区大手前2丁目 06(6941)0351						
発行年月日	西暦 1999年3月31日						
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所 在 地	コード 市町村:遺跡番号	北緯 ° ′ ″	東経 ° ′ ″	調査期間	調査面積 (m ²)	調査原因
モ ゆ やま こふん 摩湯山古墳	おおさか ふ 大阪府 きしわだ し 岸和田市 ま ゆ とう 摩湯町	272027 53	34° 27' 38"	135° 26' 08"	1998.9.1 ~ 1998.9.9	60m ²	歩道設置
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項		
摩湯山古墳	古 墳	古 墓	堤				

